

## 人柄が出る先生

2023.8.9

2011年、平成23年、9月22日には、中学校の初任者の授業を参観した。2年生の国語の授業だった。学習課題が提示された。学習課題が生徒のものになっているかという問題がある。その課題から、「よし、やってみよう」「わくわく」「できるかな」「楽しみだな」と生徒が思っているかどうか。

学習の流れの説明があり、学習のゴールが示された。声の大きさがよく、指示が明確で、歯切れがよかった。「3分間で」という指示があった。学習には、少しの抵抗感があるとよい。授業の準備がすばらしかった。板書の字の大きさ、掲示物の字の大きさもよかった。意外と掲示物の字の大きさには、気が配られないことが多い。辞書や付箋紙の準備もよかった。落ち着いた2年生であり、50分間集中できる雰囲気があった。板書の最初には、日付を書くことがある。「長月二十二日」と書いてあった。私も同じように書いていた。何だかうれしかった。

本時の目標は、「自分の感想を伝えることができる。」で、学習課題が「感想を伝え合おう。」だった。評価規準は、「感想を書いている。」で、まとめは、自己評価と感想記入だった。

グループ学習が取り入れられた。人数が5人だった。活動の目的によっても変わるが、人数は4人がよい。あるいは3人である。5人以上になると、話し合いなどはうまくいかなくなる。そもそも座席配置がよくない。5人だと、一人だけお誕生日席になる。この生徒は、活動に参加しにくくなる。

授業者は、生徒たちに「友達のこだわりを見つけてください」という指示をしていた。「話し合いが終わったら机を直して」「代表者は小さな声で練習して」という指示も的確だった。よく準備されていた。

書くことの学習だった。生徒が、書きたいと思う題材を設定することが大切である。学校生活の中でのチャンスを逃さないことである。普段の授業での書く活動がベースとなる。1時間の国語の授業で、どのくらい書いているか。書くことは考えることでもある。

代表者の発表を聞く姿勢がよかった。そうなるのは、容易に想像できた。生徒のことを考えた授業者の配慮に、生徒が応えている。授業者の人柄が反映された授業だった。自己評価をしていたが、A B C Dの尺度法と記述法を併用した方がよい。自分の感想の欄が小さい。生徒は欄の大きさに合わせて書くものである。ということは、欄が大きければ、もっと書くようになるということである。

この授業者は、誠実に、子どものことを考えて、教育というものに取り組んできたはずである。現在は、中学校の教頭先生として奮闘中である。新たなステージでの活躍に期待したい。